

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL.105 (年4回発行)

- 発行日 令和4年9月30日
- 発行 三春まちづくり協会
- 編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100-1(旧若駒寮)
TEL/FAX(62)3988



親子が共同で行った、2回目の苗木の植樹。強い日差しの中、気持ちのいい汗を流した

「頂上のカーテン・コール」 親子の、ハナモモ苗木の植樹会

地域部会

圓谷 彰孝

「三春花の丘公園」が四月の初め、一つの区切りを迎えた。開園である。令和元年から三年をかけた、散策路を整備した。昨年、小学一年生と保護者が共同で行った、ハナモモの苗木の植樹は、同公園中腹の通りに、新鮮な緑を息づかせている。小学生が書いた木札が、添えてあるのが特徴だ。「おかあさんといっしょに、成長を見に来るからね」

「どつちが大きくなるか、競争だよ」ひとつひとつに、子どもたちの夢と、自然への愛情がほとぼしっている。地元の高校生も、大きな役割を担っている。田村高校の生徒二百人が、園内の整備に汗を流しているのだ。彼らが植樹したドウダツツジは、入口の一つ、王子神社参道に整然と並び、誇らし気に、入場客を出迎えている。初夏の一日、新一年生と保護者による、二回目の、ハナモモの、苗木の

植樹会が行われた。山肌を照り付ける、強い日差しを受けながら、参加者は、町民第2体育館から頂上付近にある植栽場を目指した。

クラスメートと一緒に坂道を上った、山内寿明くんは、ウルトラマンが大好きだ。ハナモモに添えた木札には、「つむらやえいじさんが、もどつてきますように」と願いを込めた。

「眺めのいいところがいいな」と話すのは、村上結音ちゃんだ。場所を決め、苗木に水をかけながら、「花をつける日が待ち遠しい」と手を合わせた。

「名探偵コナン」のファンである、橋本国臣くんは、「たんにいになりたいです」と木札に書いた。街の中央にそびえる同公園は、敷地が広大で、紫雲寺(浄土宗)、王子神社、北野神社の参道からも入場することができ

る。頂上付近に立つて正面に視点を向けると、眼下に、広大なパノラマが迫ってくる。

華正院(馬頭観音堂・天台寺門宗)から、龍隠院(曹洞宗)、光善寺(浄土真宗)、高乾院(臨済宗)を経て、法蔵寺(時宗)に至る、横一列の街のたたずまいである。

道を急ぐ人、商いに精を出す人、大きな荷物をキャスターに載せて運ぶ人など、行き交う人びとの活力のある営みが、頂上に立つて眺める人の新鮮な感動を誘う。「街全体が一枚の絵のようだ」

「頂上でこそ味わえる、感動の瞬間だ」それらの歓声を背に受け、のびやかな気持ちになつたとき、ある、作品が心に浮かんだ。「どんなこともでも、また、はたけではたらいっているひとでも、汽車の中で苹果(リンゴ)を



苗木に土をかけ、足で踏み固め水をかける。子どもたちは一生懸命だ

見晴らしのいい頂上付近。道沿いに、一本一本、ていねいに植えられた



たべている人でも、(略)

みんな、みんな、むかしからの、おたがいのきょうだいな。だから。チュンセがもしポーセをほんとうにかわいそうにおもうなら大きな勇気を出してすべてのいきものほんとうの幸福をさがさなければいけない」

(宮澤賢治『手紙 四』)

現代仮名づかい

主催者の一人、「NPO 法人三春楽しい地域づくりの会」副理事の井上広志さんは、

「小学生、高校生、保護者をはじめとして、町内の多くの方々の協力を得て、公園が、少しずつ、かたちをととのえつつあります。三春町の新・名

所としてふさわしい、憩いの場づくりに力を尽くしたい」と語った。
 今後、ハナモモ、サクラ、レンギョウ、アジサイ、ヤマザクラなどを植樹する予定だ。
 六十九人が参加した。



木札には、こどもたちの大きな夢が託されている。見つめる保護者の目もやさしい

「昨日の植樹祭は雨天により新入生が植樹をすることができませんでしたが、二年生に進級した今年の八月七日、当時の木札を貼るイベントが実施されました。」



二の丸散策路、および 東館散策路」踏査 地域部会



城山公園からの眺め

「発見と、醍醐味と」
 地域部会 圓谷 彰孝
 令和四年六月二日(木)、
 「二の丸散策路、および東館散策路」の踏査を行いました。

日差しの強い中、三春小学校のグラウンドを経て、お城山の頂上に向かったのです。案内役が不在で、皆で相談しながら、歩を進めました。途中、ルートの確認が思うようにいかない場面もありました。所々に設置された標識を頼りに、周囲の状況を観察、阿武隈

高地の起伏に耐え、田村大元神社を目指しました。初夏のたたずまいを思わせる光景が随所に見られました。コアヤメ、フキ、ウルイ、ウバユリ、ホオ、タマブキなど、鮮やかな緑や色彩が、疲れを癒やしてくれます。

散策路や城山公園の周辺では、壮年たちが各所で下草狩りを行い、お城山全体が、散歩や観光客の訪れを歓迎しているかのようにです。

城山公園は、階段をはじめ、東屋や児童公園も整備され、親子連れを楽しませる工夫も施されています。眺望を楽しめる場としての要件も満たしています。

安全確認のもと、発見もあり、醍醐味も味わった、踏査でした。



東館散策路の踏査

コミュニティ福島の視察研修 環境部会



大型スクリーンの見学

環境部会長 船田 勝正

令和四年七月二六日(火)、環境部会でコミュニティ福島(福島県環境創造センター)の視察研修を行いました。当日の参加者は四名と少なかつたのですが、新たな知識を習得できてとても有意義な研修でした。

東日本大震災の津波により東京電力福島原子力発電所の事故が起きて十二年が経過しようとしています。放射線による被害や福島県の復興の歩みなど分かりやすく展示されています。

初めに、大型スクリーンでは、原発事故の発生から現在の福島県の実況を見ることで、事故当時の復興の様子を

感じることができました。

次に、原発事故後の発電所1号機から4号機までの模型を見ながら、放射線の影響範囲などについて係員から説明を受け、「霧箱」をいう装置で見えない放射線を可視化できて、放射線はどこでも飛んでいることを実感しました。

環境創造シアターでは、未来の福島県を想像したり、再生可能エネルギーを学んだりした自分も変わる必要があるかと思えました。

全球型ドームシアターでは、原発事故から復興までの映像を三六〇度球体の中で観ることができ、大迫力の映像を体験することができ、是非、行って体験して欲しいと改めて感じました。

最後に、係員の方から放射線の説明を受けて、今回の視察研修を終了しました。



事故後の1号機から4号機までの模型による説明

初心に聴く

環境部会

額賀 恵一

令和四年度三春まちづくり協会環境部会委員に選出されました八幡町字委員の額賀恵一です。
 わからない事ばかりで皆さんにご迷惑をかけますがよろしくお願ひします。

広報部会

齋藤 満儀

この度、三春まちづくり協会の広報部会を委嘱されました、中町(御免町)の齋藤満儀です。
 今まで三春町に住んでいながら、町のことを殆ど知らない状況にありました。

これを機会に、身近な所から少しずつ勉強していきます。微力ながら皆様のお役に立てればと思っております。

皆様、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ致します。

編集後記

▼今年の夏は、暑い暑いと何度言ったのだろうか。いや、今年もである。このところ毎年暑くなってきた。それも尋常な暑さではない。また暑さと比例して、至る所で線状降水帯による記録的短時間大雨が発生した。▼各所で大規模被害が見られ、磐越西線の線路が崩落したのは驚いた。この記録的大雨が地球温暖化によるものと叫ばれて久しいが、その影響が顕著になって来ている。私たち一人一人にできることは小さいが、集まれば大きな力になり変わることができると信じていたい。▼一方で今年の全国高校野球選手権大会も熱かった。県大会での田村高校をはじめ、甲子園では県代表の聖光学園が準決勝で仙台育英と熱い戦いを繰り広げた。勝った仙台育英が優勝し、東北百年の悲願である大優勝旗がいに白河の関を越えた。熱戦が進むに従って地元が三春から福島県、東北と広がった。▼勝ち負けが全てでないこんな熱さは大歓迎である。冬になれば今度は寒い寒いと言おうのだからうけど。

(吉田 寿雄)

コミュニティだより

「三春わが街」第一〇五号

発行日 令和四年九月三十日

発行 三春まちづくり協会

編集 三春まちづくり協会

広報部 会

三春町大字山崎(〇〇一)

(六二)三九八八